

2015年 CSA ワーキング・スタディ・ツアー
参加者アンケート

2015年CSAワーキング・スタディ・ツアー アンケート

若 月 利 之(連合・総合組織局・連帯活動局部長)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・これまで、正直申し上げますとCSAの活動は冊子、ネット等で見聞きするだけですが、今回ラオス、タイと訪問して活動が両国に対して大変有益であるということが実感できました。また、参加された他の団員の方々との交流も深めることが出来、スタディーツアー本来の目的以上に、実りの多いものとなりました。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・草の根的な支援ではあるものの、ラオスやタイにとって重要な課題をピンポイントで捕らえた事業をCSAが展開してきたことを知ることが出来、強く感銘を覚えました。ラオスについては、国土は広いが人口が少なく、且つ密集していないことから、教育をきめ細かに行うことが困難である現状、そしてCSAの支援の重要性を改めて知ることが出来ました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・こういった事業は、送り出す方も受け取る方も馴れ合いになってしまいがちですが、今回、学校の子どもたち、寮に住む高校生たち、寮を卒業した人たち、そして関係団体の全員が感謝の意を心から示してくれていることがわかりました。特に寮の卒業生が今でもあのように集まるというのは、彼らがCSAの支援に対して心から感謝をしているからだと思います。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・ラオスやタイの現状を知ることが出来、適切だったと思います。特に両国の大使館を訪問したことで、改めて国の事情がよくわかりました。一つ申し上げれば、出来れば、まず学校や寮を先に訪問して、あとで関係官庁を訪問した方が、要請などを伝えやすかったのではないかと思います。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・大変有益な活動を展開していると感じました。前述の通り、正直あまり活動内容を知りませんでした。一方、もっと活動をアピールするための情報発信をされた方がいいと思います。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・元々は難民支援という命題がありましたが、アジアでの連帯を推し進める仕事をされたいと思います。背景には労働運動があるので、ラオスやタイの労働組合との連携をされてみてはいかがでしょうか。(ラオス、タイの労働組合の構造を重々承知した上で申し上げます。)

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・活動に関する情報発信がもっと必要かと思います。また、この報告についても、もっと多くの方に読んでいただけるような広報活動もあってよいと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・前述の通り、草の根支援は継続性が重要だと思います。困っている人たちがいることを今回目の当たりにして、改めて支援の重要性、CSA の責任を認識しました。支援によって発展をし、自立する気持ちを持って活動をしているとは思いますが、今梯子を外してはいけないと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・連合本部職員の宿命かもしれませんが、なかなか単組レベルの方と仕事の話をする機会はありません。組織のことから、職場でのご苦労など、他の団員の方々からいろいろと教えていただき、本当にいろいろなことが勉強になりました。逆に、本部のことが少しわかってもらえていたら嬉しいところです。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・団長を輪番制にしたのは良かったと思います。
- ・一方、「団長＝おみやげを準備する人」という考え方が全員に染みついており、最後の方で土産を忘れる団員の方もおられました。解決策としては、まず朝、日程の確認をしますが、前日、解散する前に、翌日の日程、役割を再確認すると良いと思います。
- ・また、行く先々での行事や行動なども事前（出来れば、羽田集合前）にわかると良かったと思います。綱引きをすることがわかっていたら、革靴しか持ってこなかった、という事態も避けられたと思います。

可野 淳二(UAゼンセン・アシックス労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・収集した衣料カンパ品が間違いなくラオス・タイの各地で役立っていたこと
- ・当社が発送した衣料パッキングがバンコクの倉庫で見つかったこと
- ・ラオスは貧困国であるが、国民は心豊かであったこと

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・各省庁・小学校・高校寮で歓迎を受けたこと、特にサンティパーブ寮でのセレモニーでは寮生の感謝の気持ちが伝わってきました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・すべての訪問先から歓迎していただき、1981年間から34年間、支援活動を評価して頂いていると感じました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- 充実したスケジュール、訪問先すべて満足しています。訪問地のアポイントと時間配分に苦労されたと思います。7日間が新鮮で個人では行けない場所へ連れて行って頂き、感謝しております。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- CSAの国外の3つの事業が、タイ・ラオスの発展への支援活動に貢献していると思いました。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- CSAの活動をすべて把握していませんが、今回、小学校を訪問して校舎の傷んでいる箇所もあり、今後耐久性のある学校建築を望みます。タイ障害者の職業訓練学校の設備の支援も必要だと感じました。具体的な活動は分かりませんが、効果的で効率的な援助を今後もお願いします。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- 今回参加したことによって、社内でCSAの存在をアピールし易くなったと思います。
- 海外ツアーだけでなく、国内でも参加できるような勉強会があれば良いと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- 継続をお願いします
- 現地を視察してCSAの支援活動が実感でき、今後の組合活動へのモチベーションがあがると思いました。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- 様々な組合の組織の方が支援していることが分かりました。
- 訪問地で歓迎されるばかりで、とくにサンティパープの寮生の交流会で我々もお返しのできるパフォーマンスがあれば、もう少し団結力ができたかもしれません。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- 団長・記録・写真の役割分担を決めたことは良かったと思う。ただ取材用でカメラを用意した方が良かったと思います。
- 朝、出発前に朝礼を行った方が生活のメリハリがつくと思いました。(忘れ物をなくす為)
- 卒業生の交流会で100円の物でも良いのでプレゼントを増やした方が良かったと思います。

黒田 誠(UAゼンセン カスミユニオン)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・実際にカスミユニオンから送付した衣類が倉庫で保管されており、救援物資として活かされているものを目で確認できたこと。
- ・小学校訪問時に現地の子ども達とふれあいことができた。サッカーやバレーボール、そして綱引きではCSAチームを応援してくれていたことが感動した。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・小学校と高校の寮のトイレが使用できないことはすぐにでも改善してほしい。教室、ノート鉛筆、教科書があっても勉強しやすい環境でなければ勉強が出来ないのではないか。少しでも充実した環境を整えてあげたい。
- ・保管倉庫では仕分けされていない箱が多くあった。注文が来ないのか、それとも人員不足により作業が追い付いていないのか不安を感じた。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・どの施設でも始めに感謝のことはあったように、評価されていると感じた。
- ・卒寮生や在学中の学生が日本に留学したいというようなことが聞けたのは、この活動への恩返しとも受け取れることがあった。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・毎日充実した行程だったと感じている。
- ・小学校の訪問を増やし、衣類の贈呈等もっと含めたほうが良いと感じる。
- ・もっと学生や子どもたちとの交流を増やしてほしい。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・小学校の建設、高校寮の建設をもっと増やし、ラオスの子どもたちの教育を充実させることがラオスの未来に繋がると感じた。そしてラオスの子どもたちが将来、日本に来てお互いの国がもっと発展できるように成長してほしい。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・小学校の建設や高校の寮、そして大学の建設も今後、必要となるのではないかと。
- ・学校の建設と並行してスポーツ設備ができないか。アジア大会、オリンピックに出場する選手を育成し、ラオスという国の存在価値を更に高めていくことも必要だと考える。
- ・そして継続

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・多くの組合員、そして各企業の従業員に知ってもらうことが一番大事だと思う。そのためには今回のようなツアーに参加して、参加したメンバーが各単組で周知していくことだと思う。また、ツアーの参加者を拡大していくことも必要ではないかと。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・もちろん継続した方が良いと思う。
- ・日程の変化や交流方法、訪問先を変えながら継続した方が良いと感じる。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・他労組の活動方法等、とても勉強になった。また、産別を越えた情報交換もでき、充実した日程を過ごすことが出来た。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・各役割は統一した方が良いと感じた。特に団長は1人とし、記録を副数人で担当し、空き時間に共有化した方が良いのでは。

戸 梶 貴 明(UAゼンセンSMBCコンシューマーファイナンス労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・中古衣類を送る活動の本質を知ることができたこと。
- ・今後の自分の人生の中で、必要なことを感じる事ができたこと。
- ・今回参加した仲間と出会えたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・「ありがとう」という感謝の気持ち。
- ・子供達の笑顔

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・タイ・ラオスの両国でも、CSAの活動が認知されており、高い評価と感じます。
- ・タイ・ラオスで迎え入れてくれた、全ての人々の笑顔で証明できます。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・日程、訪問先とも問題ありません。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・現地の人々に必要とされており、素晴らしい活動を行っています。
- ・しかし、私は、実際の活動内容等を詳しく知りませんでした。もっと、輪を広げるべきだと感じます。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・現在の中古衣類を送る運動、小学校建設、高校生寮などの活動を続けること。
- ・そして、活動の輪を広げること

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- 多くの人にこのツアーに参加し、ツアー参加者が、一人でも多くの仲間に伝えること
- しかし、ツアーに参加するとなると、費用面などの問題が発生するので、日本でも伝える機会を作るべきです。
- 会合などでDVDの視聴や、写真展など、一つの方法だと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- もちろん、続けるべきです。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- このメンバーで参加し、産別を超えての交流は大変勉強になりました。
- 8日間共に行動することで、より深い交流となりました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- 各自担当が決まっており、責任と緊張があり、良かったと思います。

鈴木 教子(UAゼンセンソラストユニオン)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- 中古衣類がきちんと現地に届き、どんな方々がどのような方法で仕分けをしているのかまでの一連の流れを直接自分の目で確認し、現場スタッフが抱える問題を、少しでも救い上げることが出来て良かったと思います。
- ラオスに訪問したことで、ラオスの文化や環境、特性など日本との違いが知れて良かったです。
- 現地の方々に優しさとお心遣い、あたたかい笑顔を沢山頂けたことが、今後の自分のエネルギーと何よりの財産になりました。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- AAR（難民を助ける会）。
ベトナム戦争時、ラオスにも不発弾が投下されたことで、現代にも国内の一部地域に未だに数多くの不発弾が残り、ラオス国民を苦しめているということです。不発弾は、住民の日々の生活に入り込み、常に死と隣り合わせであるという深刻さを物語り、そしてそれは、他国の援助なくしては解決できない問題であると知り、自分自身にも出来ることはないかを考えるきっかけとなりました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- どの場所でも私達を快く受け入れて下さり、CSAの古くからの活動が高く評価されていると感じました。
ただ、ラオス日本大使館を訪問した際に、CSA等の団体が設立した学校の話が話題となり、老朽化や教師の適正配置、学校運営の維持費問題があがったので、設立だけではなく、長期的な管理（メンテナンスなど）が必要かと思いました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- 当初はかなりタイトでハードなスケジュールだと思っていましたが、蓋を開けてみると、あっと言う間の1週間でした。ただ、事前情報が何もない中（出発時の数時間の勉強会のみ）での現地訪問だったので、事前に勉強会を設けて頂けると、現地での質問や要点が絞られて、より効率化が図れるのではと思いました。現地の方とは、なかなかお会いすることができないので、質疑応答時間を増やした方がいいと思います。
(WSTに参加される方は、初めて訪問される方々が殆どだと思うので、毎回初歩的な、同じような質問をしているのでは・・・と思うようなこともありました。)

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- CSAの行う活動は大変素晴らしく、国内外で高く評価されているものだと感じています。
慈善活動については、一般的認識が浸透している欧米に比べ、日本は生活に根付くまで興味を持つ人自体多くはないので、CSAを主体とするあらゆる慈善活動が日本国内で浸透して欲しいと思いましたし、自分も興味を持ちました。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- あくまで希望ですが、ラオスの学生達に一定期間の日本（主に海外）への受け入れなど教育の援助をもっと推進してほしいと思いました。サンティパーブ高校CSA寮やCSA高校寮卒業生との交流会で意見交換をした際に、（日本に）興味があり、勉強したいけど、金銭的な面が懸念されているように感じましたし、郊外の方では、まだまだ小学校に通えない子供達も多い事を知りました。ラオスは発展途上国であるため、教育は必要不可欠だと思いますし、学びの機会を増やすことで優秀な人材が確保され自国の発展に繋がると思います。
また、そんな彼らの思いや探求心を無駄にしたいと強く思いました。
- 設立した学校校舎等の老朽化対策（修繕）。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- CSAの活動報告や実績を幅広く紹介できるような環境作りと構築。またそれを企業や労働組合の枠を超えて、日本国民に浸透できれば良いと思います。
- 署名や募金活動（多方面から寄付金や署名を得るためのアプローチ）

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- これからも継続的に続けてほしいと思います。
慈善活動は継続的に行ってこそ、その価値を得るものだと思っています。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- 女性参加が少ない分、衛生面や体力面でチームの皆さんから沢山のお心遣いを頂きました。心から感謝しています。
- 今まで自分のものさしで判断していたことが、チームの皆さんと出会い、時間や目的を共有する中で、立場が違えば、ものの見方や考えも自分とは全く異なることに気づき、皆さんの人間性に新鮮さを感じました。
- WSTに参加していなければ今後会うこともなかったチームの方々や、同じ加盟組合にいても知り合いになることはあまりないので、業種を超えて各単組の業務の取組みや改善活動が聞けて勉強になりました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- リーダー役、フォロー役、盛り上げ役など各々が自らの役割を理解し、行動する姿が印象的で「さすが労働組合役員や連合の方々・・・」と感じたほど団結力や協調性があるチームだったように思います。

川 端 茂 雄(三菱重工労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- CSA が建設した小学校・高校寮の視察に加え、各国の大使館などに訪問させていただき、CSA の活動がラオス・タイ両国から大変評価されていることを実感することができた。
- また、組合員から集めた衣類の保管倉庫などを視察し、大変役に立っており、喜ばれていることを確認できて良かった。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- 高校生寮の学生の多くが、日本語を勉強したい・日本に行きたいと思っていることに驚いた。日本語を教えることができる先生が増えることを期待する。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- 全ての訪問地で、多くの方々から多大なる歓迎をいただいたことを踏まえると、CSA の活動は非常に高い評価を得ていることと併せ、大きな期待を抱いているのだと感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- 移動時間に費やす時間は多かったと思いますが、全体的には、ゆとりのあるスケジュールだったと思う。
- 個人的には、もう1～2施設行けたらと思ったし、衣類をもらった子ども達と話す機会があればよかったと思った。(日程的に厳しいかもしれませんが・・・)

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・誇らしい活動だと思う。これを一般の組合員に分かってもらうために、単組・産別として何か工夫できたらと感じた。

2) CSAは今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

- ・活動については、大変素晴らしいことだと思うので、衣類の収集などPRの拡大に向け、CSRとしても機関紙等を発行してもよいと思うし、単組・産別と協力してPR活動を工夫した方がよいと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・CSA活動を広く浸透させることを目的に、過去にCSAワーキングスタディー・ツアーに行った人達を集め、参加してみて感じたことなどを意見交換してもよいと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・是非つづけた方がよいと思う。ワーキングスタディー・ツアーに行ける単組には限りがあると思うが、衣類を集める活動は連合加盟の単組・産別に広く浸透させてもよいと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・CSAの活動だけでなく、各単組の活動や賃金などの労働諸条件の考え方など様々な情報交換ができたと思う。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・今回9名の参加であったが、このくらい的人数でよいと思う。但し、役割(団長・記録・撮影)の確認やその日の日程の確認は、車の中ではなく、ホテルのロビーでやった方がよいと思った。
(車の中はエンジン音がうるさくて聞こえずらい、お土産の忘れ防止にもなる。)

柳瀬好文(基幹労連・IHI労働組合連合会)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・自組織から送った救援衣類がしっかりと現地へ届き、現地で必要とされる方たちへ届けられ、感謝されていることを確認できたこと。また、組織内で行っていた活動の下流が見えたことで、衣類の種類や分別について、上流に求められていることを認識できたこと。
- ・CSAの取り組みが、子供たちに教育を受ける場を提供している現状を実際に確認できたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- CSAが支援して建てた学校へ通い、そこで勉強した子供たちがラオス国立大学に進学してラオスの発展のために努力していること。
- 一方で、まだまだ初等教育を受けられない、途中で学校に行けなくなり労働を強いられている実情を目の当たりにしたこと（格差と児童労働の現実）。
- ラオスにおける中国の影響力が予想以上であったこと。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- 政府として教育に力を入れていくにあたり、学校建設に関しての建設費用面で高く評価されている印象を受けました。
- また、貧困層・集落に対する支援としては、救援衣料が役にたてられ感謝されている印象を受けました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- 盛りだくさんのスケジュール内容でしたが特に問題はなかったと思います。
- 訪問先として、基幹労連が支援したファサン村小学校を視察できたことは有難かったです。救援衣類については倉庫だけでなく、実際に衣類を必要としている地区を訪問できたら更に良いと思いました。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- 国際連帯活動の取り組みとして、いろいろな形での支援が過去から継続して取り組まれていることは高く評価できると思います。今後も継続していくべきと考えますが、同じような支援を必要とする国が他にもあるなかで、国際連帯活動の範囲を広げていく取り組みも検討すべきではないかと思っています。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- 地雷除去の取り組みや、医療支援の取り組みも課題が山積みだと思いますが、WHOやJICAと住み分けをはっきりさせて、CSAは貧困層へ対する支援、教育施設の提供、教育の充実に特化して活動を継続していくべきと思います。今回の視察にて、学校を作っても教師がいなかったことが課題であるとの意見がありました。これに対して何ができるか、アイデアはありませんが、困っているところに手を当てることを検討すべきかと考えます。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- 情報発信をもっと充実させ、活動内容を幅広く周知する必要があると考えます。その上で、産別・構成組織に積極的な支援と協力を働きかけ、成果を共有するサイクルを築き上げることだと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・「百聞は一見にしかず」のとおり、ワーキングスタディーツアーは大変有意義でした。こういった機会を与えられなければ、CSA活動に対する認識が変わらなかったと思います。一人でも多くの方がワーキングスタディーツアーを経験し、情報発信の要となってほしいと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・懇親会を通して、CSA活動の取り組み事例を共有することができ、他組織が実施している活動に刺激されることもありました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・役割分担が計画されていたことで、程度の緊張感と責任感をもって、それぞれの役割をこなせたところは評価できると思います。多少のトラブルも、渡邊副会長の冷静な判断により、滞りなく運営されたことに大変感謝しております。

森 泰 隆(基幹労連 JFEスチール京浜労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・救援衣類や各種カンパ等、我々が行っている活動の形を自分の目で確認することが出来てよかった。
- ・現地の方々と交流を深めることによって、今後の活動の励みになった。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・経済環境が大きく変化する中で、都市部と農村部の格差が想像以上に広がっていること。
- ・ナカン村・ファサン村の子供たちが、靴も履かずに校庭を走り回り遊んでいた。衣料のみならずサポート出来ないかと感じた。(靴があればもっと色々な遊びができるのに…)
- ・子供たちの無邪気な笑顔

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・どこの訪問先に行っても、熱烈歓迎を受け、CSAの組織・活動がラオスやタイの人達に必要なとされ、感謝されていると実感した。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・羽田空港での事前教育時間の中で、各訪問先の概要や活動内容等(前回の写真や活動記録を活用)を活用し、より理解を深め現地訪問したほうが良いと感じた。
- ・各省庁に訪問する前に、小学校や衣類倉庫を訪問・視察したほうが意見交換しやすいと感じた。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- CSA の活動は、ラオス・タイの人達に認知され、非常に感謝をされているが、一方的な活動に成り得る可能性も含んでいると感じました。今後、国民性の違いもあり難しいとは思いますが、ラオス発展のための新たな活動の展開として、現地の方々の活動（自助努力）を啓発していく活動の展開も必要と考える。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- 小学校やCSA 寮など、建屋の老朽化が進んできており、補修が必要である。
- 予算の問題等々はあるが、CSA 寮卒業生（ラオス大学）達を日本に短期でもよいので読んで相互交流をしていただきたい。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- CSA の活動をより多くの人達に理解してもらうために、活動報告資料を活用していくことが必要なのではないか。（DVD を作成するなど）

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- 是非継続していただきたい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- 7泊8日の中で、様々な意見交換や交流をさせていただきました！！
若さん・可野さん・黒田さん・戸梶さん・川端さん・柳瀬さん・ずーちゃん・ひなさん
ありがとうございました！！

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- 事務局合わせ9名というチーム構成は、コミュニケーションも取りやすく良かったです！